

情報科学研究科「学際的研究プロジェクト」支援経費実績報告書

所属専攻 人間社会情報科学専攻
講座(分野) 人間情報学(論理分析学)
研究代表者職・氏名 助教授・篠澤和久

(1) 研究題目 学際的視点からの情報教育研究環境の構築

(2) 代表者および協力者

曽根秀昭 教授 応用情報科学専攻・情報ネットワーク論
磯野邦夫 助教授 システム情報科学専攻・情報生物学
満保雅浩 助教授 情報基礎科学専攻・情報セキュリティ論
篠澤和久 助教授 人間社会情報科学専攻・論理分析学

(注記) 申請時のシモンズ助教授から磯野助教授への交替があった。

(3) 目的

本研究科では、今年度（H15年度）、共通基盤科目「情報倫理学」「情報法律制度論」などの開講によって、情報教育の一環に新たな展開を画することができた。本プロジェクトでは、高度情報化社会の現状と今後の展望に即応した、さらなる充実、拡充を目指し、本研究科の教育および研究理念の実現を図ることを目的とする。

(4) 内容

本研究科の教育理念の一は、高度情報化社会の発展に貢献する人材育成にある。情報倫理教育は、その課題の基盤的支柱をなすものである。情報化社会の進展を着実なものとするために、情報倫理教育は必要不可欠であり、今後その社会的要請はますます高まると考えられる。しかし、情報化社会の加速度的な多様化と流動化は、そのような教育の基本指針の構築をきわめて困難なものとしている。くわえて情報倫理学は、情報科学技術はもとより、法制度、政治経済、倫理などの諸観点からの考察を必要とする学際的な問題圏をなす。このような状況を顧みて、本プロジェクトでは、各専攻教官からなる協力体制のもとで、本研究科の教育理念に即した情報倫理教育の具

体的なプランについて考究を試みる。

(5) 貢献度

本プロジェクトでは、前年度に引き続き、主として「情報倫理学」のカリキュラム構成について随時検討会議を開き、意見交換を行なった。その成果は、具体的には、各講義担当者への依頼する講義（案）として集約された。多様な領域とテーマを含む「情報倫理学」を統一的に俯瞰できるカリキュラムの構築は困難であったが、本研究科の特色を活かし、新たに「生命情報」系の領域などを盛り込むかたちで講義内容を刷新でき、新年度に向けての基礎固めができたことは評価できる。また、代表者の篠澤は、他の学際的プロジェクトの研究討論会にも参加する機会を与えられ、「情報倫理学」の観点から「情報の価値」をめぐるテーマについて発表し、討議できたことも、本プロジェクトの成果として数えることができる。

情報教育は、上述のように、情報科学技術関係の諸分野のみならず、法制度、政治経済、倫理など諸観点からの考察を必要とする。本研究科には、こうした多方面の研究成果を集約し、社会的指針を構築しうるスタッフが揃っていることを踏まえて、他大学・他研究機関にはみられない、特色ある情報教育のモデルの開発や、緊急の課題である情報セキュリティなどに関する具体的提言を行なうことができる。そうした組織体制作りのためにも、本プロジェクトのような基礎作業の積み重ねが貢献する度合いは大きいと言える。

ただ、今年度は教官の人事異動などの外的事情もあって、「情報法律制度論」のカリキュラム編成との連携を十分に検討できなかった点、および、懸案であった科研費申請等による、より広範・高次の研究プロジェクトへの展開について実現しなかった点は、次年度への課題として残された。

